通信講座「短歌教室」添削用紙

申し込み教室

1馬場教室
[✓ 2佐佐木教室]
3高野教室
4岡井教室
5「草木」教室
6今野教室
7はじめての短歌

受講番号

かな遣い
新・[✓ 旧]

（必ず楷書で。申し込み教室名、男女別、かな遣いの新旧別は○で囲んで下さい）

ふりがな

評価　△　○　[✓ ◎]

空あふぎ連休がキライ（ヒ）と泣く女（ひと）に忘れ形見の
犬が寄りそふ

13,　13,

〈一首の背景〉
亡くなったご主人を思い出し、愛犬と2人きりの日々を愁う。

講師講評欄

具体的なエピソードを、限られた音数の中でうまくまとめています。「空あふぎ」「犬が寄りそふ」、とくに「連休がキラヒと泣く」にリアリティがあります。旧仮名遣いの表記は、赤で訂正した通りです。仮名遣いの確認に、常に辞書を引く習慣を身につけましょう。

評価　△　[✓ ○]　◎

秋の夜ビール片手に立つキッチン我のために
焼く秋刀魚一尾

「6音 字足らず」

〈一首の背景〉
誰かのためでもなく作る料理は、どうでもよく雑で空虚である。

講師講評欄

具体的な場面を描写して、心情を暗示するというのが、短歌の基本的なスタイルです。それがしっかり出来ているので感心しました。ただあまり「雑で空虚」な感じは伝わりません。それをどう出すかですね。思いを伝えるためには多少の脚色もあっていいので〈寒き夜に自分独りのために焼く秋刀魚一匹焦がし過ぎたり〉といった方向で。良くなります。

評価　△　[✓ ○]　◎

宵月夜行く先いそぐ白猫（ツ）に行くあてのない
我（わたし）は絡む

〈一首の背景〉
目的があるかのように行く猫をうらやましく思ってちょっかいを出す。

講師講評欄

切ない場面ですが、やけっぱちの感覚にユーモアも感じられます。そこが持ち味です。「宵月夜」という情緒のある言葉と内容との落差も、いい味を出しています。結句の放り投げたような字足らずも捨てがたいのですが、ここは「わたしは絡む」と音数を合わせましょう。

総評

旧仮名遣い（歴史的仮名遣い）とは、文字通り古い仮名遣いで、それが戦後、我々が現在日常的に用いている新仮名遣い（現代仮名遣い）に改められました。ただ、短歌は歴史がある文芸なので、現在でもあえて古い仮名遣いを用いている歌人が半数弱います。旧仮名遣いで歌を作る場合は、基本的に全ての歌の全ての仮名表記を旧仮名遣いで書く決まりになっています。外来語は例外ですが、ただ日本語はカタカナでも旧仮名遣いとなります。

監修者印　添削者印

■■添削結果について
《評価の記号》　良い作品の順に「◎」「○」「△」「無印」。
《添削記号》　。。。。＝良い表現　＿＿＝欠点

※注　返送の際の宛先となる住所、氏名欄が裏面にありますので、必ずご記入願います。